

研究室名	神経生物学研究室 学会発表
------	----------------------

【発表者について】アンダーラインは本学教員、研究員および技術職員、○は発表者、※は大学院生、卒研生または卒業生

発表時期	2018年11月28日
------	-------------

学会名	第41回日本分子生物学会
-----	--------------

演題名	ネオニコチノイド系薬剤がマウスの脳に及ぼす影響
-----	-------------------------

発表者	○※清水仁美、 <u>和賀央子</u> 、※横森将輝、 <u>平澤孝枝</u> 、大沼一富、 <u>内野茂夫</u> （神経生物学研究室）
-----	---

内容	<p>2018年11月28日から30日に、パシフィコ横浜において第41回日本分子生物学会が開催され、大学院生1年の清水仁美がポスター発表を行った。ネオニコチノイド系薬剤は日本を含め世界各国で汎用されている農薬である。近年、ネオニコチノイド系薬剤をマウスに投与した実験から、薬剤がマウスの脳内に移行、蓄積されることや、妊娠期の親マウスの経口投与により仔マウスの不安行動が引き起こされる可能性が報告され、ヒトへの影響も懸念されている。そこで、本研究では、ICR雌マウスにネオニコチノイド系薬剤であるイミダクロプリドおよびジノテフランを経口投与し、4時間後の大脳皮質灰白質の網羅的DNAメチル化解析を行い、薬剤によりメチル化が変動する標的遺伝子を特定するとともに、それらの遺伝子の経時的な発現を定量PCR法を用いて解析した。その結果、ゲノムDNAのメチル化や遺伝子の発現に影響を及ぼすことが明らかとなり、さらにその標的遺伝子は各薬剤により異なることが明らかとなった。</p>
----	--

関連画像	
------	--